

企画展

ほとけをめぐる花の美術



2019年2月28日(木)～3月31日(日)

根津美術館 NEZU MUSEUM <http://www.nezu-muse.or.jp>

紀元前5世紀頃、釈迦族の王子が、インドとネパールの国境に近いルンビニ林園に美しく咲いた^{むゆうじゆ}無憂樹の花の元で生まれました。後に^{しゃかむに}釈迦牟尼の名で知られる聖者の誕生です。この世で苦しむ人々を救う道を求めた釈迦は、35歳のとき、緑豊かな^{ぼだいじゆ}菩提樹の木陰で行った瞑想により、教え(仏道)に目覚めます。そして長きにわたる巡歴の末、80歳になった釈迦は、クシナガラ^{しやら・きら}の沙羅の木立の中で最期の時を迎えました。釈迦の生涯は、いつも生命感あふれる花樹に彩られていたのです。

「ほとけをめぐる花の美術」展は、“花”に視点をおいて、平安時代から江戸時代にわたる仏教の絵画・工芸の優品をお楽しみいただく展覧会です。特に、泥水の中から伸びて清らかに咲くハスの花は“蓮華”と呼ばれ、^{れんげ}仏教のシンボルになっています。本展では、この蓮華をはじめ、無憂樹、沙羅、想像上の花である^{ほうそうげ}宝相華、^{ほうじゆ}金銀宝珠でできた宝樹、さら
にこの世の浄土とみなされる日本の聖地に咲く桜の花にまで視野を広げます。36件の仏画に加え、^{きようぼこ}経箱、^{けまん}華鬘、
^{けこ}華籠、^{きようづくえ}経机など、蓮華をあしらった工芸品約10件の花々がギャラリーを飾ります。

仏教のほとけたちは、熱帯の国にふさわしく、色鮮やかな花や緑に飾られていました。優美華麗なビジュアル・イメージをとまなうことで、仏教の教えは人々の心に鮮やかな印象を刻み、広まっていったのです。

根津美術館
NEZUMUSEUM



< 釈迦の生涯を見守る >



(部分拡大)

景勝の地ルンビニに立ち寄った麻耶夫人。無憂樹の枝に手を伸ばした夫人の右脇からシッダールタ王子が生まれた。のちに仏教の祖となる釈迦牟尼の誕生である。

重要文化財
しやかはつそうぎ
釈迦八相図(部分)
4幅 日本・鎌倉時代 13世紀
MOA美術館蔵



ぶつねはんず
仏涅槃図
1幅 日本・鎌倉時代 14世紀
根津美術館蔵

長旅からの帰路、釈迦はクシナガラで病に倒れ、沙羅の木々に囲まれて最期の時を迎えた。その死の瞬間、沙羅の半分が真っ白に枯れたという。本図には、参集する動物のなかに猫もいる。修理により初めて公開可能となった注目の作品。

< 密教世界を荘厳する >



重要文化財
あいぜんまんだら
愛染曼荼羅
1幅 日本・鎌倉時代 13世紀
根津美術館蔵

人々の和合を祈る密教修法の本尊。曼荼羅の周囲の、供養菩薩の間には蓮華や宝相華が巡り、四方方向に開いた赤い蓮華門を置く。金彩を添えた花葉の繊細な色使いが秀逸。

< 憧れの地に咲く >



れんげざ
蓮華座に立つ吉祥天の背後には宝樹が立ち、空には白象や天女が浮かび、散華の花びらが舞う。さらに手前に蓮池が広がる本図は、福德の女神にふさわしい華やかさである。経典に基づく着彩画としても本図は貴重な遺例である。

重要文化財
きっしょうてんまんだら
吉祥天曼荼羅
1幅 日本・鎌倉時代 13世紀
MOA美術館蔵

< 教えを象徴する >



れんち まきえきょうぼこ
蓮池時絵経箱
1合
日本・平安時代 12世紀
根津美術館蔵

二段重ねの経箱。その上面や側面は、穏やかな水面の上に花葉を伸ばす可憐な蓮華が研出時絵で装飾される。シンプルな図案をゆったりと配す表現、その時絵の技法も古様である。



じんごじきょう
神護寺経
1巻
日本・平安時代 12世紀
根津美術館蔵

牡丹や蓮、石榴などの花を蔓草と組み合わせた想像上の花“宝相華”は、唐時代の中国で成立し、仏教美術に多用された。紺紙経の表紙が、金銀の華麗な花で埋め尽くされている。

その他のおもな出展作品：

- 重要文化財 仏涅槃図 行有・専有筆 南北朝時代 康永4年(1345)
- 重要文化財 法相曼荼羅 鎌倉時代 13～14世紀
- 重要文化財 兜率天曼荼羅 南北朝時代 14世紀
- 重要文化財 大日如来像 平安時代 12世紀
- 重要文化財 華嚴五十五所絵 平安時代 12世紀
- 重要文化財 十三仏像 鎌倉時代 14世紀

- 重要文化財 絵過去現在因果経 卷第二 慶忍・聖衆丸筆 鎌倉時代 建長6年(1254)
- 重要文化財 十二因縁絵巻 鎌倉時代 13世紀
- 重要美術品 熊野曼荼羅 鎌倉～南北朝時代 14世紀
- 重要美術品 中尊寺経 平安時代 12世紀
- 重要美術品 華鬘 南北朝時代 14世紀

すべて根津美術館蔵

同時開催展

旧竹田宮家の雛道具

竹田宮に嫁がれた明治天皇の皇女・常宮昌子内親王。持参された内裏雛や両陛下から追贈された雛道具等の愛らしい品々を展示します。



だいらびな
内裏雛
1対 日本・明治時代 19世紀
根津美術館蔵
竹田恆正氏寄贈

昌子様ご誕生時に誂えられたと伝わる、公家礼式が忠実に再現された有職雛。皇族の内裏雛は向かって右に男雛が置かれる。

展示室5

暮春の茶の湯

春の終わりを意味する暮春は、陰暦3月の異称です。移りゆく春の情景に心を寄せて、季節の茶道具約20件の取り合せをお楽しみください。



しゅこうせいぢちやわん おそざくら
珠光青磁茶碗 銘 遅桜
同安窯系
1口 中国・南宋時代 13世紀
根津美術館蔵

銘「遅桜」は旧蔵者の出雲松江藩 第7代藩主・松平不昧によるもの。淡い朽葉色に発色した青磁釉が侘び茶の祖・村田珠光の好みとされる。

展示室6

関連プログラム

講演会 「ほとけをかざるしょうごん—莊嚴と花」
日時 3月23日(土) 午後2時～3時30分
講師 伊藤 信二氏
東京国立博物館 博物館教育課長
会場 根津美術館 講堂
定員 130名

〈申し込み方法〉 当館ホームページの「イベント情報」の申込みフォームから、または往復はがき(1参加者につき1枚)に参加を希望される講演会名・住所・氏名(返信面にも)・電話番号を明記の上、〒107-0062 東京都港区南青山6-5-1 根津美術館講演会係宛にお送りください。
※2月23日(土)午前10時より受付開始(往復はがきは当日の消印より有効)。
※先着順で定員になり次第締め切らせていただきます。

スライドレクチャー 担当学芸員がスライドを用いて展示解説をいたします。

- ・「雛道具と婚礼調度」
3月8日(金)
講師: 永田 智世 (当館 学芸員)
- ・「ほとけをめぐる花の美術」
3月15日(金)、3月29日(金)
講師: 白原 由起子 (当館 特別学芸員)

※毎回午後2時より45分間程度。開始の15分前より開場。
※先着順で定員(130名)になり次第締め切らせていただきます。立ち見席はございません。

特別催事 ・「はじめての茶席」
3月14日(木)
日頃、お茶に馴染みのない方でもお気軽にご参加いただけるお茶会を今春も開催いたします。

※参加券販売などの詳細は後日館内チラシ、当館ホームページをご覧ください。

開催 概要

展覧会名 企画展 「ほとけをめぐる花の美術」
主催 根津美術館
開催期間 2019年2月28日(木)～3月31日(日)
開館時間 午前10時～午後5時
[入館は午後4時30分まで]
休館日 毎週月曜日
入館料 一般1100円(900円) 学生800円(600円)
()内は20名以上の団体、障害者手帳提示者および同伴者1名の料金。中学生以下無料
前売券 一般900円 学生600円
※2019年1月10日(木)～2月17日(日)「酒呑童子絵巻—鬼退治のものがたり—」展開催期間中、根津美術館ミュージアムショップにて販売
アクセス 地下鉄銀座線・半蔵門線・千代田線(表参道)駅下車A5出口(階段)より徒歩8分、B4出口(階段とエスカレーター)より徒歩10分、B3出口(エレベーターまたはエスカレーター)より徒歩10分
住所 〒107-0062 東京都港区南青山 6 - 5 - 1
お問合せ TEL 03-3400-2536 (代表)

〈記者内覧会のご案内〉

上記展覧会の記者内覧会は、2019年2月27日(水)午後1時30分より開催予定です。ご案内ご希望の方は、当館広報課へご連絡ください。

次回展

特別展

おがたこうりん かきつばた ず
尾形光琳の燕子花図
—ことほ寿ぎの江戸絵画—

2019年4月13日(土)～5月12日(日)



国宝
燕子花図屏風(右隻)
尾形光琳筆
日本・江戸時代 18世紀
根津美術館蔵

国宝「燕子花図屏風」を、婚礼調度とされた「源氏物語図屏風」や祇園祭のにぎわいを描く「洛中洛外図屏風」などとともに展示します。

〈リリース・広報のお問い合わせ〉

根津美術館 広報課: 所, 村岡 TEL: 03-3400-2538 (直) E-mail: press@nezu-muse.or.jp

※本資料掲載の内容は、予告なく変更になる場合がございます。最新の情報はお問い合わせください。(2018.11)